

八森のアワビは 学校育ち



新 秋田道遙

文・写真 津島修三

第29回

明治9（1876）年の開校から

数えて132年の歴史を誇った八峰町立八森小学校は、平成21年に近隣2校と統合。観海小学校校舎に集約、「新生」八森小学校として生まれ変わった。

旧八森小学校校舎は昭和48（1973）年の完成。建物としての老朽化は否めないものの、鉄筋コンクリートの堅牢な学校建築は、転用にも十分に耐えられるレベルだ。

この建物を使って今、世界的にも珍しいアワビの陸上養殖事業が行われ

ている。

かつて八森の浜では天然アワビが潤沢に取れていたが、地球温暖化や乱獲の影響もあって、漁獲は年々減少の一途だった。そこで、再び八峰町をアワビの名産地にしようとの地元の思

いから、知見を頼られたのが現在の日本白神水産株式会社の菅原一美社長だった。菅原社長には長年にわたる海産物陸上養殖の研究実績があった。

卒業生の要望により当時の校舎の面影を残したままの教室で、アワビの陸上養殖を始めたのが平成24年。直

近の年間出荷量は約6トン。秋田県全体の天然アワビの年間漁獲高は20トン余りだから、もはや貴重な秋田県産の海産物資源の一つに成長した、と言える。

アワビ養殖で事業性を確立した今、同社では、これまで誰もやらなかったハタハタの養殖にも実験的に取り組んでいる。季節ハタハタの漁獲も近年は減少の一途だが、そのうち、学校卒のハタハタが世に出るようになるかもしれない。

鮮魚流通に関して言うと、大消費

地の市場から遠い秋田は、競りの時間に間に合わせて魚を運ぶのは難しい。漁場で取れる生きた魚を養殖技術でいったんいけすに放し、市場の競りの時間を逆算して出荷のタイミングをコントロールできれば、秋田の漁業にも新しいビジネスチャンスが生まれる。

今年9月に、水産業への理解を深めるための国民的イベントである「全国豊かな海づくり大会」が秋田市で開催される。その節目の年に秋田の漁業に新しい可能性が開けそう

日本白神水産では養殖場の見学も歓迎している。養殖アワビも購入できる。

希望すれば子どもの工作用等にアワビの貝殻も無償で提供すること（日本白神水産 ☎0185・74・5653）